

第1回大阪府環境審議会環境総合計画部会の概要

日 時：平成21年8月12日(水)14:00～16:00

場 所：大阪赤十字会館4階 401会議室

1. 環境総合計画の策定について

- ・事務局から、諮問の背景や「将来ビジョン・大阪」等の大阪府のビジョン、環境総合計画策定スケジュール等について説明。
- ・今後のスケジュールとしては、来年春までに部会を6回程度開催し、環境総合計画の基本的な事項について取りまとめる予定。

2. 現行計画の点検・評価について

- ・事務局から、施策展開における4つの基本方向（循環、健康、共生・魅力、参加）毎に進捗状況を説明。

3. 自由討議

各委員からの主な意見は、以下のとおり。

- ・現行計画の4つの基本方向は、国と1つが違うだけで、もう少し特色があってもいいのではないか。
- ・目標設定が、本来の環境のための目的に沿った設定になっているかを再度点検する必要があるのではないか。
- ・低炭素社会実現に向けては、環境行政というこれまでの枠を超えた視野が必要であり、大阪の産業構造や都市構造、ライフスタイルを長期的にどう転換していくべきかを考えながら、短期目標を設定していくべき。
- ・低炭素社会を大阪で実現していくという強い決意を持った中身になればよい。
- ・大阪の将来の都市戦略と合致する形で、特徴的なプロジェクトなり政策手段なりを入れることを検討すべき。
- ・PDCAサイクルに基づくもっと厳格な評価をやっていく必要があるのではないか。
- ・計画の中に、里山・湿地保全、絶滅種・外来種対策などの生物多様性を守るという地域戦略をうたい込んでほしい。
- ・府民一人一人の理解と実践が課題。
- ・環境配慮行動をすれば得になるような具体的な仕組み、その知恵が必要。
- ・施策展開や計画の進行管理の中で、府民を巻き込んだ仕組みづくりの検討が必要。
- ・関西や大阪府などでの目標や施策内容等をわかりやすく示すとともに、それを府民等が実践するレベルにまでわかりやすくブレイクダウンしていくことが大事。
- ・便利さとかその他諸々と環境との折り合いをどうつけるか、暮らしそのものを消費者目線、生活者目線で変えていく必要がある。
- ・住民参加というより、住民主体で環境に取り組んでいく、またそのために行政は住民へどのような支援をするのか、という視点で計画をつくるべき。
- ・焼却工場の見学や遠足での自然との触れ合いなど、環境教育の場が大事。